



実装技術『縦軸と横軸』

森 三樹*

大学時代には、『実装』という言葉を知らなかった私ですが、実装に携わりまもなく30年になります。岩波書店の広辞苑（第六版）によると、実装とは、装置や機器の構成部品を実際に取り付けること。「パソコンに実装された部品」とあります。実装が広辞苑に登場したのは第五版からで、実装という言葉が、少しずつ市民権を得てきたことがわかります。また、『実装』と検索すると18,400,000件のヒットがあり、これは、『ものづくり』の15,700,000件、『エレクトロニクス』の10,100,000件より多いようです。組立てる、接合する、接続する、広義の実装技術は、生産技術の基盤技術の一つであり、ものづくりには、必要不可欠な技術であるとともに、なくなる技術です。

さて、題目とした『縦軸と横軸』を読んで、皆さんは何を連想されるでしょう。旧5,000円札紙幣の肖像、新渡戸稲造博士は、縦軸を、自己を確立し、ふれないで自己の方針を決め、己が革新に生きる人格(Personality)と言い、キリスト者である博士は、それが個人の魂と神との対話の中で形成されるとしています。また、横軸は、個人と個人の交わり、社会性(Sociality)と言い、個の集合体であり、公共であるとしています。この言葉を技術者(研究者)の世界に置換えてみますと、縦軸は、真理、真実、原理原則であり、技術の深さ(レベル)を表し、横軸は、個人と個人の関係、人との関係の幅と表すことができると思います。縦の関係は、今の技術の深耕、あるいは、新しい技術・価値を創出し育成していくこと。横の関係は、仲間であり、ライバルである社外(学外)の同業者との輪を広げるとともに、彼らと切磋琢磨しながら歩んでいくこと。この縦の関係×横の関係の面積を大きくすることが、技術者の成長には大切だと思います。

学会の価値は、会誌発行事業、大会事業(春季講演大会、秋季大会マイクロエレクトロニクスシンポジウム(MES)、ワークショップ、国際会議であるICEPなど)、展示会事業、技術調査事業(25の研究会を柱とする技術委員会活動)、教育事業、表彰事業、国際事業、支部事業、それぞれの活動により『場』を提供することを通じて、縦軸である技術の種をまき、育てること、横軸である人の輪を広げることであると考えます。それによって、学会員の皆様が成長し、その成長とともに、学会も成長していくことを願っています。これからも学会員の皆様とともにさらなる発展を目指し励んでいきたいと思っています。